令和6年11月1日

第2回世田谷区地域包括支援センター
運営協議会
(要約版)

午後 7 時 2 分開会

○介護予防・地域支援課長 令和 6 年度第 2 回世田谷区地域包括支援センター運営協議会を開催する。

本日は、お忙しい中、御出席いただき感謝する。

私は、事務局の世田谷区高齢福祉部介護予防・地域支援課長のである。議事に入る前の進行をさせていただくので、よろしく願います。

本日は、前回から引き続き対面での開催とさせていただいた。

委員の欠席、遅延の御案内であるが、金安委員は、本日、欠席の連絡が入っている。また、1 名、遅れるというお話を伺っているので、御了承いただきたい。

会議の成立については、運営協議会設置要綱第 6 条により委員の過半数、10 名以上の出席で成立をする。本日の会議は 18 名の出席で、成立していることを報告する。

また、本日は、本会議の傍聴について区ホームページで周知をし、オンラインでの傍聴を認めているので了承願う。

それでは、会長、議事進行をお願いします。

○会長 本日もお忙しい中、会議に参加いただき感謝する。会議に協力のほど、よろしく願います。

それでは、事務局から資料の確認をお願いします。

(資料確認、省略)

○会長 議事に入る。

議事に対する質疑については、説明後にお受けする時間を取るなので、よろしく願います。

それでは、次第に沿って議事を進める。

まず、議事事項(1)、事務局より説明をお願いします。

○介護予防・地域支援課長 まず、(1)の地域包括支援センターにおける柔軟な職員配置について説明する。

資料 1 の 1、こちらは地域包括支援センターの職員配置に関することであるが、介護保険法により「職員の員数は厚生労働省令（介護保険法施行規則）で定める基準に従い条例で定める」という形にされているが、このたび、令和 6 年 4 月 1 日付にて介護保険法施行規則が改正されたので、世田谷区での対応案について説明する。

2、改正の要点であるが、これまで各地域包括支援センターに配置している 3 職種、保

健師、社会福祉士、主任介護支援専門員については、それぞれ1人ずつの常勤職員の配置が必須となっていたが、今回の改正により、以下の運用が可能となった。こちらについては、1枚めくっていただくと図も挟まれているので、そちらも適宜、参照しながら、お聞きいただきたい。

要点の説明に戻る。

1つ目、2の(1)3職種の常勤換算について説明する。改正後の内容は記載のとおりであるが、地域包括支援センターが置くべき専らその職務に従事する常勤の職員の人数については、地域包括支援センター運営協議会、当協議会が必要と認めるときは、非常勤職員を常勤職員が勤務すべき時間数に換算をして配置することができる、このことを常勤換算というが、そういった規定が改正されたところが、まず3職種の常勤換算についてとなる。

(2)、複数区域の合算についてである。こちらも同じく地域包括支援センター運営協議会が地域包括支援センターの効果的な運営に資すると認めるときは、複数の地域包括支援センターが担当する区域をひとつの区域として、当該区域内の第1号被保険者の数、複数区域の合算によるが、これらについて、必要な常勤職員の数を当該複数の地域包括支援センターに配置することにより、当該区域内のひとつの地域包括支援センターがそれぞれの職員配置基準を満たすものとするという改正の内容になる。

これら(1)、(2)の2つの改正内容について、世田谷区としての対応方針(案)を3に示している。

まず、(1)上記2(1)、3職種の常勤換算については、今後、地域包括支援センターの人材確保がより困難になっていくと予想されていくことなどから、引き続き常勤職員の配置を基本としつつも、支援の質の担保、適切な運営に配慮し、常勤換算による職員配置を認めていく取扱いにしていきたいと思っている。なお、この内容で改正を進めていく場合には、本対応について、令和7年第1回区議会定例会において条例改正を提案するという流れになってくる。

続いて、(2)上記2(2)の複数区域の合算に関しては、各センターの運営法人が当区の場合は異なっているということと、個人情報管理の観点等から課題が非常に多い部分かと思っている。そうした観点から、当面は実施しないという方針を考えている。

なお、今後、地域包括支援センター等から個別に要望、相談があった場合には、都度運営協議会に諮らせていただき、内容の検討や対応の方向性について、議論させていただき

ればと思っている。

説明は以上である。

○会長 ただいまの説明について、質問、意見等があればお願いします。

○委員 一番下の(2)に「個人情報の管理などの面で課題が多く実施が困難である」とあるが、具体的にはどのような感じになるのか。

○介護予防・地域支援課長 当然、各地区で区民の必要な高齢者の方々の情報を管理している形になり、特に法人が違う場合に関しては法人間での情報のやり取りが発生してしまう可能性があるので、そういった部分で個人情報の取扱いは非常に難しいというところを1つの理由として挙げている。

○委員 2の(1)、「非常勤職員を常勤職員が勤務すべき時間数に換算して配置する」ということであるが、非常勤職員の時間数は何時間になるのか。

○介護予防・地域支援課長 常勤職員のそもそもの時間数によって換算していく形になる。非常勤の職員の配置については、それぞれケースによって異なってくる。

○委員 会社によってということか。

○介護予防・地域支援課長 そうである。

○委員 会社の非常勤職員の時間数は、会社によって、その常勤職員に認められるかどうかは時間数が変わってくるので、それに準ずるということか。

○介護予防・地域支援課長 そうである。最終的に非常勤による常勤換算を認めていく形になると思うが、だからといって全てが非常勤の職員で構成されると非常に運営が不安定になってしまうので、そこは当然、全体の状況を注視しながら、状況に応じて見ていく必要がある。

○委員 これも区議会によって、まだ決まっていない条項になるのか。

○介護予防・地域支援課長 あくまでも今回の介護保険法の改正を受けての提案になるので、意見を伺う形になる。

○会長 そのほか、いかがか。

では、私から1点。日本全国、特に都市部でない地方で、例えばケアマネジャーが不足しているとか、保健師はもともと不足していたが、そういった流れで出てきた法令改正かと思う。世田谷区の中で実際に人材確保が困難という状況はどの程度あるのか、ないのかをお聞かせいただきたい。

○介護予防・地域支援課長 後ほどの評価点検でも少し触れる部分になるが、世田谷区に

においても、特に医療職の確保に関しては、かなり難しい状況が続いている。コロナ禍をきっかけにかなり医療職の需要が高まり、様々なところで需要があることは変わっていない状況かと思うので、地域包括支援センターにおける確保もかなり難しい部分があるのかと思っている。

○会長 主任ケアマネジャーも不足しているということによろしいか。

○介護予防・地域支援課長 そこの法人による部分はあるかと思うが、幾つかお話を聞いている法人では、主任ケアマネジャーに関しても、なり手がなかなか難しいといったところと、あとは世田谷区の地域包括ケアの地区展開という形で独自の展開もしているので、そういったところでのミスマッチはかなり注視しながら採用もされていることを聞いているので、採用としてはかなり難しい部分があるのかと思う。

○会長 もう1点質問であるが、3の(2)で、センターの運営法人が異なる場合は個人情報の管理などが難しいという話で、この提案を変えてほしいわけではもちろんないが、世田谷の場合、同じ法人が複数のセンターを持っている状況があるかと思うが、そのあたり、センターの法人が同じであればという検討はなされたのか。

○介護予防・地域支援課長 具体的に法人が同じであればという細かいところまでは検討できていないが、やはり規模感がそれぞれ違うところで、どこかはそういう運用にして、どこかはそういう運用にしないということを認めていいものなのかは議論として出たので、そういったところも加味して、今回は一旦見送る形での運用にさせていただければという提案である。

○会長 承知した。

そのほか、よろしいか。

それでは、本件については皆様の意見を踏まえ、地域包括支援センターにおける柔軟な職員配置についての確認とさせていただく。

次の議事、(2)について、事務局より説明をお願いします。

○介護予防・地域支援課長 続いて、(2)令和6年度あんしんすこやかセンターの評価点検についてという内容に入らせていただく。

クリップ留めの資料2であるが、介護保険法では、保険者、運営事業者は地域包括支援センターの評価を行い、事業の質の向上を図ることとされており、区においては、令和元年度からになるが、毎年度、評価点検を実施している。本日は、令和6年度の評価点検結果と今後の予定等について説明する。

1、今回の評価点検の経過である。1の(1)が経過になるが、本年2月28日の運営協議会において、今回の評価点検の内容について委員の皆様にご確認いただいた上で、各あんしんすこやかセンターに自己評価点検と事業計画の作成を依頼し、6月の下旬までに提出を受けた。

(2)、自己採点の方法、自己評価の点検であるが、運営管理、総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント等の評価指標に対する令和5年度の取組状況について、各あんしんすこやかセンター、運営法人が自己評価点検表、参考資料1に示している目標と、それから、チェック項目に示された採点基準に従い、それぞれ、「十分できているか」、「十分ではない」という2つの指標で判断をして、自己採点を行っていただいた。

自己採点の採点根拠となる内容については、事業計画書を別にお配りさせていただいているかと思うが、そちらの実績欄に記載をするようにしている。

(3)の採点基準、採点の○、△それぞれの意味であるが、○の「十分できている」という意味としては、採点基準に対して、少しでも、僅かでもできているという意味ではなく、それなりにできているという以上に該当している場合に○がつく形になり、△は「十分できていない」という形になる。○に該当しない部分が△になるという2択による評価の形にさせていただいている。

2に進んでいただき、区の評価点検、区の採点については、(1)に記載があるが、①のところで、各あんしんすこやかセンターの自己採点について、自己評価点検表に記載の採点基準に基づき、事業計画書に根拠として書いていただいた内容も参照しながら、各あんしんすこやかセンターが出してきた自己採点が適正かどうかの点検を基本として区の採点を行っている。

②の経営状況に関しては、令和5年度の各法人の財務書類を公認会計士に委託して意見をいただく形を取った。

次のページ、区の採点結果になるが、こちらは別紙1、A3横向き両面で印刷してあるものが結果の一覧になる。見ていただくとお分かりになるかと思うが、○がついている割合は全体で99%、ほとんど○がついている状況の表になっている。

ここについて、昨年度は98%の○がついていた状況なので、昨年度よりもさらに○の数が増えている。全て○がついているあんしんすこやかセンターが28カ所中の26カ所である。昨年度は18カ所であったので例年より○の数が増えている。

それから、公認会計士による経営状況の審査になるが、こちらは、いずれも問題なかつ

たという結果になるが、別紙1の表面の1の運営管理の(7)が経営状況の点検結果になる。こちらは全て○がついている状況になっている。

3番、令和5年度の実績に対する令和6年度の評価点検のまとめになるが、まず(1)総括として、①先ほど御説明したとおり、全てのあんしんすこやかセンターにおいて区が求める要求水準を上回っており、事業の実施状況は良好であると考えている。

続いて、②であるが、評価点検の結果として、各あんしんすこやかセンターで運営管理、それから、事業実施とも、これまでの評価点検の状況を踏まえて、また、取組の事例等も参考にして改善をしていると認識している。

続いて、③地区の状況等に応じた運営、それから地区課題等への対応に関しても取り組んでいるのではないかと考えている。

4番、1の(6)職員の定着支援という部分になるが、こちらの取組については、前回の評価のタイミングでは幾つかのあんしんすこやかセンターで「十分でない」という自己評価が上がっていたが、今回は全てのあんしんすこやかセンターで「十分できている」という形で○がついて回答が来ている。ここに関して、令和4年度の入職、退職は、全体で入職者30名、退職者30名であった。これに対し、昨年度は入職者30名に対して退職者も20名となるので、そういった部分で少し改善が図られている。

ただ、介護現場では、職員の定着は区としても課題と捉えていて、引き続き、あんしんすこやかセンターの支援に取り組んでいくというところは変わらない姿勢で考えている。

また、区の配置基準を下回る欠員であるが、昨年度、合計で8件発生したが、採用や、法人内異動によって、おおむね早期に解消できている。今後も人材の確保を取り巻く状況が厳しいことは予想されるが、区のホームページでも、今年度から、法人の募集を載せるような形で取組みをさせていただいている。そういった形で募集中の求人情報を掲載するなどして、引き続き支援を行っていければと考えている。

続いて、(2)の好事例及び課題・改善事項については、別紙3の一覧表があるので、そちらをご覧くださいと思う。

こちらは一部抜粋をしての紹介になるが、一例として、好事例及び課題・改善事項について、まず、運営管理に関するところの紹介である。1ページ目の好事例⑥、こちらの事例は、1つのあんしんすこやかセンター単独で行うというよりは、地域のあんしんすこやかセンター全体で、合同で職種ごとの連絡会や交流会、各種会議等を行っているようなケースになる。

区としても、地域全体で実施する人材定着であるとか、専門性を高める取組みについては非常に有効だと考えているので、今回の好事例に関しては、あんしんすこやかセンター間で共有をしていきたいと考えている。

それから、事業運営に関する部分であるが、こちらは3ページ目に進んでいただいて、内容としては、前期高齢者や、オートロックなどのセキュリティーの高い住宅に住む高齢者の方の見守り支援、実態調査に関しての課題の部分である。ここが、3ページ目の好事例の⑤と⑥になるが、記載のとおり、集合住宅の管理組合や住民等に働きかけを普段から行い、顔の見える関係づくりを行っていくことなどにより見守り体制を強化することは今後、非常に重要である取組みだということで紹介させていただきたい。非常に重要な視点だと認識をしている。

資料2にお戻りいただき、(3)の今後の改善の方向性というところになる。

まず、①好事例に関しては、全体で共有をして、積極的に自らの参考としながら、それぞれの地区やセンターの事情に応じて運営の向上に取り組んでいただきたい。

②運営法人に対してであるが、こちらは課題を法人とあんしんすこやかセンターの現場とで共有していただくとともに、区としても運営法人との連携強化を図っていく。

次に、③ベテラン職員の退職や流動的な人員体制の状況において、安定的な運営と地域の信頼関係の確保に向けて、一層安定した職員体制を整えるため、職員配置基準の徹底や人員の定着、育成、資格取得の対応、また、認知症等の対応のため医療職配置の充実を期待している。区としては、区ホームページによる法人の職員採用情報の掲載等に引き続き取組み、あんしんすこやかセンターの安定的な運営の支援を行ってきたい。

続いて、④安定した運営の維持をしていくため、管理者の変更は最低限とさせていただき、定年や病気等のやむを得ない理由により管理者を変更する場合や、安定した運営のため、副管理者などの管理者を補佐する職員の配置に取り組んでいただきたい。

続いて、⑤あんしんすこやかセンターが、いつでも誰でも利用できる相談窓口であることを、医療機関や学校などを通じて、多世代も対象に一層広範囲に周知していくとともに、地区の状況や利用者の便宜を踏まえて出張相談を行うほか、ひきこもりの相談窓口等との連携を充実して、また、児童館を加えた四者連携も取り組んでいるが、そういった部分も強化・充実させていただき、総合相談業務の充実を図るとともに、地域課題の把握に努めて、地域づくりの推進にも取り組んでいきたい。

続いて、⑥コロナ禍後の活動の低下により、孤立、体力低下が進んでいる状況が見られ

る。そういったところを踏まえて、早期発見、防止の充実が重要であることを考え、実態把握訪問等により対応していきたいと考えている。さらに、前期高齢者や、把握が難しいオートロック式マンション等に居住する高齢者の支援のための管理組合等への働きかけなどにも取り組んでいきたい。

その後、⑦から⑭については、総合相談支援、権利擁護、地域づくり、介護予防事業、認知症ケア、在宅医療・介護連携の推進などについて、これまでの取組みを一層充実していく旨、記載している。

また、多忙な業務、人員交代などから改めて職員のレベルアップ等に取り組む必要もあることは認識しており、法人の研修やOJTに加え、区の研修や指導等の充実も図っていく。

複合的課題と困難事例への対応については、重層的支援体制整備事業（多機関協働事業）による支援体制の整備が進んでいるので、そこでのあんしんすこやかセンターを含めた協働の在り方を踏まえて取り組んでいく。

その他、各種業務の拡大を踏まえて、業務の重複等を見直し、効率的、効果的な運営を図り、職員の負担軽減に努めていきたい。

続いて、(4)その他に移る。①であるが、介護離職などの相談事例が増えており、介護と仕事の両立支援が課題となっているので、今後、ハローワーク等関係機関の動向も踏まえ、相談支援の充実を図っていく。

②あんしんすこやかセンターでの災害時の対応については、避難行動要支援者への個別支援計画の作成状況等を踏まえ、水害時の対応を含め取り組んでいきたい。

4 ページ目、4 番、令和6年度評価点検の結果通知に関しては、各あんしんすこやかセンター、運営法人宛て、それぞれに通知をする予定である。

以上が今年度実施した評価点検についての説明になる。

5 番目、令和7年度の評価点検と記載があるが、こちらは令和元年度から令和6年度に実施した評価点検のこれまでの状況を踏まえて、次の議事で紹介をする。

続いて、スケジュール、来年2月開催予定の運営協議会で令和7年度の評価点検項目等を確認して、各あんしんすこやかセンター、法人への自己評価点検、令和7年度事業計画の作成等を依頼させていただく予定である。

長くなったが、説明は以上である。

○会長 ただいまの説明について、委員の皆様から質問、意見があればお願いします。

○委員 先ほど財務諸表についてお話が出たが、各民間の介護事業所等はホームページにて、7年度に関しては財務諸表を公表するようと言われていたが、各あんしんすこやかセンターもそういう状況はあるのか。

○介護予防・地域支援課長 あんしんすこやかセンターの財務諸表というよりは、あんしんすこやかセンターを受託している法人全体の財務諸表になるので、あんしんすこやかセンターの財務諸表を我々のほうで公表することは、特には考えていない。

○委員 実際やってみての感想であるが、評価点検が始まって、介護予防・地域支援課もなるべく我々の事務負担が少なくなるように、あまり評価項目が複雑化しないように、色々と工夫はしていただきながら今に至っているかと感じているが、正直、やっているか、いないかというだけの評価になってしまっているのが課題だと感じている。

あとは、次以降の議事にもなるが、国が示している評価指標との連動があまり感じられないまま評価をしていて、本来であれば、評価を踏まえてそれぞれの各地区の地域包括支援センターの取組みの課題や強みを確認して、それを事業計画書に持っていくという、評価を踏まえた事業計画書の作成という形が当然の流れだと思うが、それぞれをバラバラに出している感じがしていて、正直、国の調査票についても、やっつけのような感じを出してしまっているのでは、区の自己評価、国の調査指標、それを踏まえた事業計画書の作成というところが全く連動できていないことがすごく課題だと感じている。

また、自己評価というところで、市区町村とあまり話し合えていないというか、話し合えた内容についての、例えば議論も、運営協議会でも恐らく報告止まりになっていることが、私もずっと傍聴してきていて感じているところである。10月22日に東京都の地域包括支援センターの管理監督者向け研修で法政大学の教授の方が講義されていたが、評価は保険者と地域包括支援センターが話し合って取り組んでいくということと、市区町村が何を目標にしているのか、やはり共通認識を持って進めることが大事という、理想的なことではあるが、そういうお話もされていた。

やはりやりっぱなしというか、やったものを活かしていない、それを運営協議会で課題も含めて共有できていないことが非常に問題だと感じている。令和7年度に実施していただくところでは、少し見直しをしたり、あと、何のためにこの評価項目があり、これを評価することで自分たちの取組みにどう生かせるのかを、例えば管理者向けに説明会をしていただくとか、管理者のみならず、運営法人に対してもそういった詳しい説明の場を設けていただくとか、確かに毎年、巡回であるとか、各法人ごとにお話はしているが、正直そ

ここではなかなかそういったところまでの内容には至っていないので、ぜひ前向きに事業計画書作成に取り組めるためにも、評価の在り方については、いま一度話し合えたらと思う。

○介護予防・地域支援課長 私自身もこの4月から担当させていただいて、今、地域包括支援センターの評価状況は、初めて確認させていただいたところになる。そういった部分で見させていただいた率直な感想であるが、正直、今おっしゃっていただいたとおりの部分なのかなというところが大きい。なので、指標が今2つのみであったり、評価を次にどうつなげていくのかが非常に分かりにくい形になっている。ただ、ここ自体も決してずっとこういった形でやっているわけではないというところもあり、様々な部分で試行錯誤をしながら今に至っているが、もう少し改善の余地はあるかと思うので、この後の議題で説明するが、踏み込んだ形で全体のスキルアップを図るために進めていければというところが、今の区の考えである。

○会長 今までの評価の経緯としては、昔は○、△だけではなく、もう少し段階的な評価も行い、さらに、委員が分担して訪問をして色々とお話を聞きながら課題を一緒に検討するという取組みを行ってきた。私も他の自治体にも関わっているが、委員が大変お忙しい中、何カ所も訪問するのはかなり踏み込んだ取組みで、区の職員だけが評価して、それが当協議会に報告される自治体もあるので、それと比較すれば、世田谷区は非常に丁寧に評価をしようという努力はしてきている自治体なのかなという印象は持っている。

ただし、評価する委員の視点もまちまちで、それによって評価される側としては納得のいかない案件も実際に過去にあったり、それで評価が○、△の2択になったというのは、おそらくそういう部分から来たのかと思う。委員がそれぞれ訪問していたので、委員と、あんしんすこやかセンター職員とは何かしらのコミュニケーションがそこでは生じて、やられた委員の皆様は御存じかと思うが、あんしんすこやかセンターから様々な課題もお話しただいて、私たちも聞いて、それを区にお返ししたりして整備されてきた事業もある。

ただし、私どもは区とあんしんすこやかセンターがどういう交渉をしたかまでは見えないが、今、課長からも、また、委員のおっしゃるとおり、評価は何のためにするのかというところでは、それぞれが評価を通してコミュニケーションを深めて課題を明らかにして、双方、当協議会も含めてだと思うが、それぞれの役割の中で改善するために何ができるかを話し合う素材になるものだと思うので、そういう認識を皆様で共有し、どうい

コミュニケーションの在り方が正しいのか、この評価を行うだけでも事務的な処理にも多くの時間がかかっていると思うので、時間の無駄にならないようにしていくか、有効に利用・活用していくかというところがポイントになろうかと思う。そのあたり、また次にお話があるかと思うが、今後、双方にとってよりメリットの高い方法を検討できればと思うので、あんしんすこやかセンターからも、こういう方法がよりよいのではないかということとをぜひ積極的に提案していただければと思う。

○（潔）委員 逆に、私は委員に教えていただきたいのであるが、先ほどお話があった中で、国でやっている調査の指標と、区が実施する評価点検の指標に乖離があるということをおっしゃったと思うが、具体的にどの辺がまずいのか。

○委員 国の調査票の指標と区の評価点検の指標があまり連動していないというか、国が定めている評価指標に沿っても評価をし、区で設定した評価点検の項目でも評価をしという点で結局、二度手間というふうにも感じる。

○（潔）委員 それが事実であれば、さすがにそこは是正したほうがいいのではないか。僕らで言えば、厚労省と東京都の言うことが違うという話である。

○委員 どちらをやればというか、例えば、この前、東京都の研修に出席した際は国の評価指標で整理をするやり方をレクチャーしていただいて、当然、世田谷区の職員も出席されていたので一緒に聞いていただいているが、国の評価指標で評価をし、それを事業計画書に活かすというPDCAサイクルの流れのほうが私個人としては腑に落ちたところがあって、正直、そういうやり方のほうがすっきりすると思った。

○介護予防・地域支援課長 今の部分であるが、この後、資料4で出てくる内容が含まれているが、資料4が、国のほうが、こちらも毎年評価を求められるので出しているものになるが、区としては、むしろ今おっしゃった部分は逆だと考えていて、要は、同じ内容を2度やるのであれば1回で済んでしまう話なので、2回やる必要はない。なので、あえて一部ずらして被らないような形で質問設定をさせていただいているのが現状の評価の仕方なのかと考えている。

特に、我々世田谷区の場合は、地域包括支援センターといっても、総合相談であるとか、オーソドックスなもの以外にも様々な、例えば認知症ケアの推進や在宅医療・介護連携、それ以外の独自にやっている項目も多く含んでいるので、そういったところもセットで評価をしようとしてくると、一旦、独自の項目で設定をして、国のほうの一般的な指標の部分の評価については、そちらのほうでやるといった形で分ける形をとっている。結果

的に、チェックする内容が多くなってしまふのが恐らく現状なのだと思うが、そういった考えでやらせていただいているのが今の状況である。

○会長 という御説明であるが、聞いていることが違うという、あえて重ならないようにしているということである。

○委員 もしかすると次の説明であるかもしれないが、国の評価指標に対して私たちは回答を出しているが、あり得ないぐらいに間違いがあつて、私もこの調査票に記入をしたので、自分自身も間違えたのだと思うが、たくさん調査を私たちはされていて、例えば、6ページ目の各あんしんすこやかセンターの回答状況のところをご覧いただきたい。

後で区からも説明をしていただけたらありがたいが、上のほうにある1の(1)の7、Q16、3職種を配置しているかという質問があるが、これは、どこのあんしんすこやかセンターも配置しているはずであるが、答えを間違えていたりとか、正直、当センターも間違っているが、こうやって間違えて出してしまったものを、そのまま集計して何%と出されている資料自体が、おかしいと思う。

やはりたくさん調査をされ、評価をされている側としては、先ほど委員もおっしゃったが、もうやっつけみたいになってくる、また調査が来たといつて、はい、いいえとつけているけれども、それで間違っているだろうなということも、区も多分ちゃんと見れば分かると思うが、こんな62%なんてあり得ない数値が出ているものを出されているのだと思って、この資料を見て、私はとてもがっかりした。何とか直していただきたい。

○会長 これは、各あんしんすこやかセンターがつけて、それは直接出しているのか。

○介護予防・地域支援課長 今の部分であるが、少し誤解があり、ここの部分の3職種のところは国の調査なので、我々で質問項目をいじることは基本的にできないという前提に立っていただければと思う。なので、この質問が間違っていると、そういったところの話ではなくて、一旦、この質問が国から調査として上がってくるので、我々、自治体としては素直に答える形で回答せざるを得ないので回答しているというところに立った場合であるが、今おっしゃった7番のQ16であるが、3職種のところの括弧書きを見ていただくと、それぞれの職種の準ずる者は含まないという書き方をされてしまっているの、この数値が出てきてしまっているという考え方である。

我々区の場合は、当然準ずる者を認めているので、今、おっしゃっていただいたとおりで、基本的には100%にならなければおかしいし、国としても、ここが全体として準ずる者を認めているにもかかわらず、なぜここの調査だけが準ずる者を除くという聞き方にな

っているのか、不明だが、ただ、そこはやはり全国的にやっているものなので、すぐには直ってこないのでは、こういった形の結果が出ているというところは理解いただくしかないと思う。

あと、たくさん調査があるというのは、本当に我々としても申し訳ないと思っているので、この後の部分でも説明するが、なるべく負担を減らすような形で動ければというところと、我々も実際、現場をきちんと見させていただきながら、どういった課題があつてというのは、きちんとあんしんすこやかセンターの皆さんと対応しながら進めていける形の評価が取れないかと今、考えている。

○委員 この回答をどのように回答するかのガイドラインみたいなものが、お示しがあつたかもしれないが、申し訳ないが、そういった細かな説明を受けた記憶がなくて、例えば、今のP.6の資料の2の(2)の権利擁護のところ、26のQ36の成年後見制度の市町村長申し立てに関する判断基準が、市町村から共有されているかという項目であるが、上馬は、市町村から特に明示されていない、もう個別事例で判断していると考えて×としたが、横並びで見ると、○のところもあれば、×のところもあるという、質問の解釈をどのようにしたらいいのか統一できていないのは事実ではなかろうかと感じている。

○会長 この評価に当たって、何か区のほうでガイドラインというか、説明をしたりしたことはないのか。

○介護予防・地域支援課長 資料4の一番最後に別添の評価指標という冊子がついているかと思うが、こちらが国が示しているガイドラインになるので、こちらをセットでお渡しして、これに基づいてやっていただいているという形になる。

ただ、個別の問合せ等について、どこまで詳しく対応できているのかは、今、私からは分からない部分があるが、ただ、少なくともガイドラインという形ではお示ししている。

○会長 多分、このガイドラインが出ているが、それぞれのあんしんすこやかセンターが非常に多忙であることと、評価の依頼が様々あつて、本来、同じ区であれば同じ回答になるべきだが、なっていないというところで、区は一つ一つをチェックしたりはしないのか。各あんしんすこやかセンターが答えて出すという形なのか。

○介護予防・地域支援課長 チェックはかけている。明らかにおかしいところや疑問があるところは個別に問合せをさせていただき、回答の内容の変更もやっているのでは、全てが全くノータッチではない。

○会長 国も、このガイドラインを結構前に出して、その後、直しているのかどうか分か

らないが、様々な問題があることは聞いている。区も、あと別の地域も、本当はやっているが、間違っ×て出していたみたいなの話もよく聞いたりもする。ガイドラインが出ていても細かく書いているので、なかなかそこまで十分、見ていても解釈のところ間違ってしまうこともあると思うので、これについては、過去のことを色々と追及しても仕方がないので、今後、もし委員の方で何か提言があれば出していただくとして、あんしんすこやかセンターと区でもう少しお互いが納得いくような評価方法で、当協議会はいつもその報告をいただく立場であるが、評価方法については検討しているので、ここで議論できることがあれば、今意見を出していただいているが、もう少し回答する側が回答しやすく、また、今後の運営に資するものにするのが基本かと思うので、そこを引き続き協議していただくことにならざるを得ないと思うが、その結果、この○、△になったという理解ではいる。その○、△がいいのかもやや疑問ではあるが、今までの経緯でこうなったということがある。よりつけやすいように、判断に差が出ないようにということである。

○介護予防・地域支援課長 今たくさん意見としてはいただいたので、区としては、説明したとおりでガイドラインをお渡しはしているが、各あんしんすこやかセンターは多忙であるので、そういったところを全て読み込めないような事情は当然あるかと思うので、例えば説明会であるとか、回答の仕方について一度区から説明が欲しいということであれば、当然、説明会を開くことも検討させていただければと思うので、よろしく願います。

○委員 評価の基本は、基本的には1軸に乗せるということである。地域包括支援センターは本来、地域のリソースや、地域の特徴に合わせてプログラムを提供するということが評価されるべきで、本来、そういう個々にあるべきものを1つの評価軸に入れないといけないという、そもそもかなり難しいことをやっていると思う。それを前提に置いたとしても、今回みたいな評価の目的は、1つは全体のあんしんすこやかセンターに頑張っていたということだと思うが、それから区全体のサービスの底上げをするということ。一方で、それぞれのあんしんすこやかセンターにとっては、やはり得意なことと苦手なことが運営上どうしてもあって、地区の課題、例えば独居の方が多いとか、貧困の方が多いとか、どうしても苦手なことを底上げする仕組みが今回の評価の中では見えてこないと思っている。先ほどご紹介いただいた好事例、あるいは情報の共有は、良いことを共有していく、まさにこの底上げのための1つの重要なポイントだと思うが、一方で、苦手なところ、できていないところをどうやっていったら良いのかについて、恐らくそれぞれのあん

しんすこやかセンターが抱えていらっしやって、それを改善する取組みを、評価の中で行うのか、先ほど委員からあったコミュニケーションを取るということになるのか、そのあたりから見つけていけるといいのかと感じた。

それと、先ほどのあんしんすこやかセンターのお2人の委員からの主張は、コミュニケーションを取るということに加えて、評価をどうやって次の計画に活かしていくかというポイントが指摘されたと思っていて、先ほどPDCAという言葉もあったが、評価をして、それが次の計画や改善につながるのであれば、違う軸での評価に対しても負担だと感じるとはおっしゃらないと思うが、それが実際の業務の中でなかなかそういう実感が湧かないと、とにかく答えると感じていらっしやる側面かなと思うので、この評価を区の評価としてだけではなく、個々のあんしんすこやかセンターが改善点を見つけられる形につなげられるような評価の指標に変えていけるといいのではないかと、感じた。

○委員 配付された資料の別紙2の各あんしんすこやかセンターの調査個票を見て教えていただきたいのが1点と、今後の取組みについてであるが、個票の3職種1人当たりの高齢者数と職員1人当たり高齢者数が、地区の特性もあるのだと思うが、500人台から千数百人台とかなりばらつきがあるが、区のほうで、1人当たり高齢者数の目安みたいなものを作られているのかどうか。

それともう一つは、取組みから見えた課題を見てみると、あんしんすこやかセンターごとの課題もあれば、結構共通するものもあって、こういった課題を、今後、あんしんすこやかセンターが自分たちで評価して、課題を出しているのだから、あんしんすこやかセンターで考えなさいということなのか、共通するものは区としても、その課題解決をどう進めていくのか、事業計画などにも関わってくる部分にもなると思うが、そういった今後の解決の取組みについて、考えがあれば教えていただきたい。

○介護予防・地域支援課長 1人当たりの人数の基準の部分でいくと、具体的にこの部分の3職種1人当たりのというところまで何か定めているものはないが、職員の配置基準数ということで、来年の4月から新たに改正をされて、1,500人という刻み方で職員の配置を増やしていく体制を強化するような形で条例も改正を進めたので、ある程度の枠で体制は決めているというところが1つ目である。

それから、2つ目の課題の上げ方は、そこも大きな課題なのかもしれないが、各地区で上がってきた課題を、さらに地域で吸い上げて、全区で吸い上げる地域ケア会議という形で、それぞれ階層を上げながら全区的な課題や政策展開につなげられるような仕組みを持

っていたり、それから、今年度から始まっている重層的支援体制整備事業の取組みにおいても、そこはさらに突っ込んだ形で、高齢者だけではなくて、障害者や子どもの関係を含めて横串を刺す形で区の関係所管が連携しながら取り組む形も進めているところなので、地区レベルから全区レベルに上げるような形でうまくできるような仕組みを、今まさに区としても考えている。

○会長 それと、この当協議会がまさに共通課題を検討する場でもあるので、区のほうがこちらの課題の中から、ここで議論すべきということは、今までも上げてはくださっていたと思うが、より積極的に上げていただいて、あんしんすこやかセンターからもぜひ積極的に共通で議論すべきことがあれば上げていただくという仕組みが、そのための協議会でもあるので、今後ともよろしく願います。

○委員 今うれしいお言葉をいただき、感謝する。先ほどご説明にあった今後の改善の方向性の中で、3ページ目の6番にあるオートロック式マンションに居住する方の実態把握が今かなりできない状況である。それは、1つのあんしんすこやかセンターがマンションの管理組合に掛け合って、たまたまうまくいったケースがあるかもしれないが、世田谷区全体でこのようなマンションが増えている中で、大きな課題ではないかと思っている。

民生委員の皆さんからも、そういったお声をいただいている、あんしんすこやかセンターの方もかなり大変なのではないかということも言ってくさっている。本当に開けていただかないと会えない状況で、会えなかった方のリストを区からいただくが、会えないものは会えないので、本当にどうしたらいいかが分からない。ぜひこの場でも、他の場でも協議していただいて、これからの時代、こういったマンションに住まわれている方々で孤立死や見守りの目が届かないことを何とか改善できたらと思っているので、もし良いアイデアとか、こんなことができたらいいのではないかという知恵が、あんしんすこやかセンターではもう尽きてきたので、御意見をいただけるとうれしい。

○会長 民生委員から何か知恵なり、アイデアはないか。なければ、例えば区から、できないのかもしれないが、マンション等にお手紙を出すとか、あんしんすこやかセンターから要請があった場合は応じていただきたいみたいなことは非現実的であるか。

○委員 オートロックのマンションは、ポストまで行くのも、また鍵を開けてもらわなければ入れないところもある。やっとたどり着いたと思っても、そこに名前は書いていなくて番号だけなので、住所には〇〇〇マンション何号室と書いてあっても、果たして入れていいものかどうか、民生委員はみんな頭を悩めている。民生委員の場合は、もしできな

ったら次の段階、あんしんすこやかセンターが回ってくれると保証されているので、つい、あんしんすこやかセンターにお願いするという感じである。でも、たまに本当にお困りになると、今度は居住者から電話があって、それで動けることも多々ある。

○委員 区でも、オートロック式マンションにお住まいの方へのアプローチは、高齢部門だけでなく大きな課題となっている。20年前に介護保険制度ができた頃、世田谷区はまだそれほどではなかったが、中央区の介護保険課長から、こういうことが早晚23区全般で起こるといってお話をいただいた。そのときは、自分としてあまり現実味がなかったが、こうなってくると、もう本当に現実味が多くて、また、オートロック式マンションだけではなくて、昨今のこの物騒な状況から、戸建てにお住まいの方も区側のアプローチや福祉部門のアプローチに容易に扉を開けてくださらない格好がある。民生委員のふれあい訪問も、本当に今年度は御苦勞をいただいてしまって申し訳なかった。個人が郵便ポストに投函するのはなかなか難しいが、郵便料金は上がったものの、まずは対象となる方に郵便制度を使ってアプローチさせていただき、すぐにその場で自分に訪問していただきたい、何時ならよいというお返事がなかったとしても、区側、もしくは福祉部門からこういうアプローチがあったということを経験していただければという手法を取れないかを今、検討しているところである。

例えば、世田谷区の場合、77歳からふれあい訪問を始めるが、今、世田谷区の77歳の方は皆さんお元気なので、御自身を高齢者認識されていない。高齢の方に訪問していると言うだけで怒られてしまうことがあるので、まずはこういう見守りであるとか、相談を受ける場所があるという情報を御本人にお届けするところから始められないかと今考えているところである。どうしても物騒なので、いきなり訪問しても信用してもらえないので、お約束とか認識とか、それぞれの信頼を得られるような手法から、まずは今回、世田谷区では3年に一度の「シルバー情報」を個別のお宅にお送りする年だったので、今回の冊子にはあんしんすこやかセンターを前面に出して、裏表紙に「困ったときの連絡先」などを掲載して、まずこれを手元に持っていただければ、何かお困りのときには、ここにそれぞれアプローチしていただきたいという手法を取ってみたいところである。

これは65歳以上に全戸配付しているので、まずはこれが第一歩、その後は個別の77歳などの節目での個別のアプローチをしていきたいと思っている。世田谷区にもマンション協議会があるが、全てのマンションが加盟しているものではなく、こういう場合には御協力いただきたいという情報が届きにくいところがあるので、本当に打てる手を地道に打っ

ていきたいと思っている。またその辺については個別というか、常にこういう協議会なども含めて相談を続けていければと思っているので、皆さんのお知恵を貸していただければと思う。

○委員 前回の運営協議会のことを少し思い出していただきたいのであるが、孤独死した世代は比較的若くて、お1人で住んでいらっしやって、まさかそうなると思っていられなかった世代が一番多かった。そうすると、やはり個人のアプローチだけではどうしても手遅れというか、もちろんそれで救われる方はいらっしやると思うが、管理組合やURへと。板橋区も経営する側が、これはピンチだと思ったらやはり動き始められた。自分のマンション組合の中で孤独死する方が増えてくると、例えば、2週間たつて見つかるに次に貸せないとか、値段が下がるとか。やってくださいと区から言うのはかなり難しいと思うが、管理組合に対して啓蒙していくというか、こういうことが起きる可能性があることをまずは情報提供として持っていて、最初、区として、やってくださいというのは、全体ではないので難しいと思うので、管理組合の方たちが参加できるような場を提供して、それこそ、あんしんすこやかセンターにどれだけ孤独死が多いかなどの情報も提供していただきながら、管理組合の方たちの危機意識みたいなものをくすぐるというのは、もう一つの戦略として持っていていただいてもいいのかと思う。

○会長 前回の運営協議会のお話で孤立死のことが話題になったのを思い出して、私は東京都の社会福祉審議会の委員も務めていて、非公開研究会がその後、かなりすぐにあった。国の孤独・孤立委員会の委員をやっている先生が報告されたので、その先生に、地域でこんな話題が出て、もう少し警察に情報開示してもらって対策を考えられないかという議論をしたという質問をしたら、国の会議でも同じような議論が出ているが、警察はすごく消極的で、やるというふうにはならなかったという話であったが、一応都の審議会で、予防するために原因の分析が必要だということはしっかり考えてほしいということも言ってきたので、それがすぐに聞いていただけるかは分からないが、要望は伝えてきたことを申し添える。

それでは、今、区もしっかり取り組もうとされていて、様々なアイデアを出していただいたので、日本全国であるが、特にオートロック、一軒家も含め、ぜひ今後の課題である。私の住んでいる地域でも安全安心メールに入っているが、自治体の職員を名乗る不審な人が電話をかけているとか、訪問しているとか、日ごろからそのようなものが入っている。自治体の職員は怪しまれるというか、昨今、危険ことになっているので、その辺が難

しいところだが、この点は、引き続き検討できればと思う。

それでは、(3)令和7年度以降のあんしんすこやかセンター評価点検の実施案について、説明をお願いする。

○介護予防・地域支援課長 資料3、令和7年度以降の評価点検についての案の説明をする。

現状については先ほど議論していただいたとおりであるが、現状のあんしんすこやかセンターの評価点検については令和元年度から始めているものになっており、毎年度実施しているものというところと、年度末になると、各あんしんすこやかセンター、各法人宛てに評価年度の実績に係る自己評価点検表と新年度の事業計画書の作成を依頼させていただき、自己評価点検表に示す採点基準、今回お見せしたものと○と△という形になるが、そういったものに従って記載していただき、具体的な採点の根拠となる部分は事業計画書に記載いただくという形でやらせていただいている。

区は、この報告内容を踏まえて個別に聞き取りも行いながら、採点結果、改善方針をまとめて当協議会に報告をさせていただいているという流れである。

これらを踏まえて1の(2)の課題に移るが、区が現在感じている課題としては、現状の評価が、主に事業計画書に書いてある内容であるとか、そこに実際上がってきたものを一部電話で確認させていただいている部分が中心になってくるので、今現状の部分でいくと、最終的な採点結果は、各あんしんすこやかセンターで上げてきていただいている自己評価の部分が重視される形での評価になっているのが現状である。

また、改善の取組みについては、評価点検の結果に対する各あんしんすこやかセンターの問題意識それぞれによるところとなっており、先ほどもご意見をいただいたが、改善に向けたフィードバックが個々に十分にできていない状況があると考えている。より具体的な改善を図っていくためには、やはりあんしんすこやかセンターの個々の運営状況を実際区がしっかり把握をして、課題等を掘り下げながらつなげていくことが必要であるというのが現状の課題認識である。

そこを踏まえて、2の令和7年度以降の方向性に移らせていただくが、あくまでも方向性という形にはなるが、現状の考え方としては、まず、(1)のところで、やり方を少し変えたらどうかと今検討していて、具体的には、事業計画書と自己点検表を基礎データとして、把握はするが、その後、介護予防・地域支援課による実地調査を行い、個別の運営状況や課題の把握をしてはどうかと考えている。

実地調査に関してであるが、区内に28カ所のあんしんすこやかセンターがあるので、1年で全部回るのは、あんしんすこやかセンター側も、区側の負担もあるので、現状の案では2年に分けさせていただいて、1年で14カ所ずつあんしんすこやかセンターを回ることを想定している。

続いて、(2)、その実地調査で何をしようとしているかであるが、区として把握したいものとしては、まずは全体に共通している課題の把握が1つ、その中から課題の解決に向けた方針であるとか、対策案の整理になってくる。それから、あとは当然個別の事情も様々あると思うので、そういったところもぜひ把握ができればという機会の場として実地調査を行えばというところである。

全体の課題に関しては、先ほども、あんしんすこやかセンターによって得意な部分、不得意な部分があるというお話があったが、全体に対する改善策をまとめ、翌年度に研修や底上げを行えるような取組みを行えないかと検討している。

3の評価の方法についてである。今考えている全体の大きなスキームであるが、まず、(1)のところ、それぞれ今あんしんすこやかセンターの委託期間は6年間あるので、2年ごとに分けるような形で考えていて、最初の(1)のところが1～2年度目で、直近でいくと令和7年度・令和8年度になるが、ここの評価点検については、事業計画書と自己評価点検表の提出を踏まえて、各あんしんすこやかセンターの概要、それから現状を介護予防・地域支援課で実際に現地に行って把握をするというのが1・2年目になる。こちらに関しては、当然、事前の書面や、関係各課とのヒアリング等で把握した課題を基に、あんしんすこやかセンターを各年度14カ所ずつ実地調査を行うという流れで考えている。

それから、実地調査で把握した状況に基づいて、あんしんすこやかセンターごとの評価、課題をまとめていくという形ができないかと考えている。

その次であるが、実地調査の結果を踏まえて、調査の状況、個別の課題、全体的な共通課題、それから、改善の方針や改善策をまとめて、この運営協議会に報告をする流れで考えている。

複数のセンターで共通の傾向が見られる課題については改善策として研修等を翌年度のスキルアップ会議等で実施できればと検討している。

次に、(2)であるが、委託の予定期間の3～4年度目になるので、直近でいくと令和9年度・10年度に当たる期間になるが、この期間の評価点検に関しては、各あんしんすこやかセンターが6年の間の2回、要は既にもう7年度と8年度で受けている部分になるの

で2回目になると思うが、2回目の実地調査を受けることで、1回目の調査時から課題等が改善されているか把握ができるという利点があるということで2回実施できればというところでの2回目が令和9年度、10年度で、継続して実地調査を行えればと考えているのが(2)の部分になる。

(3)が最後の委託期間の2年目である。5～6年度目ということで、年度でいくと令和11・12年度になるが、令和7年度から10年度の2度の評価点検を踏まえて、委託の期間の総合評価を行えればと考えている。この5～6年目の評価点検に関しては、次期事業者選定が始まってくるタイミングになるので、その事業者選定にも何らかの形でこの評価を反映させることができるのではないかと考えており、そういったところで何か反映することはできないかと検討している。

以上が令和7年度以降のあんしんすこやかセンターの評価点検についての説明になるが、実際の細かい部分の資料等、具体的な流れ等については、次回、第3回の運営協議会にて報告させていただければと思っている。

○会長 ただいまの説明について、委員の皆様から質問、意見があればお願いします。

○委員 すごく細かいことで恐縮であるが、実地調査というのはすごくいい言葉だと思った。この趣旨のように、課題を把握して、それから、好事例も収集しているように、それでよいように改善していこうという、お互いに協力しようという、一方で評価点検というのは、どちらかという、そこに評価者と評価される者という立場があって、できている、できていないというニュアンスが生まれてしまうので、先ほどもあったと思うが、区全体の目的として、どうやって地域包括支援センターのサービスをよくしていくか、課題を改善していくかということだと思うので、とても細かい話であるが、お互いに保険者も、サービスを提供する側も一緒に改善点を探していくという意味で、実地調査という形で言葉を統一されるといいのではないかと考えた。

○(潔)委員 すばらしいと思うが、私は率直に意見を申し上げますと、今日は等々力からバスで40分かけてこちらに来ている。何が言いたいかというと、世田谷区全体のあんしんすこやかセンターを本庁の介護予防・地域支援課の方が調査をして、全部評価をまとめて、それをフィードバックするのは、私からすると、ちょっと大変過ぎるのではないかと考える。あと、それこそ、ここにいる方のほとんどが面接評価をした。あのときに思ったのであるが、私は玉川医師会なので、玉川地域のあんしんすこやかセンターのことは評価できるが、私からしたら全く知らないあんしんすこやかセンターの評価をしろと言われて

も、難しかった。それを考えると、これはすばらしくて、課長、本当にできるのかと思っただが、区のほうで可能かどうか分からないが、例えば各総合支所の保健福祉センター保健福祉課が間に入るような評価プランもあってもいいのではないかという気はする。それは区役所の都合が色々あると思うので何とも言えないが、正直な感想である。

○鳥山保健福祉課長 5支所を代表して参加させていただいているが、今の委員の意見に私は大賛成である。というのは、各総合支所保健福祉課は日々、各あんしんすこやかセンターと接しているので、その実情は、良い点、悪い点、非常によく分かっている。なので、逆に保健福祉課の評価の視点が入るということは非常にありがたいと思っている。

○会長 という現場からの意見があったので、区もそのあたりを勘案させていただいて、そのほうがより正確に意味のあるフィードバックもできるということだと思いが、いかがか。

○介護予防・地域支援課長 今いただいた御意見も踏まえて、まだ具体的な内容は本当にこれから決めていかなければいけない部分だと思っているので、庁内の関係各課とも調整しながら具体的な内容を詰めていきたいと思う。

○会長 そのほかはいかがか。よろしいか。

それでは、ないようであるので、次に報告事項に移る。

事務局より、報告1について説明をお願いします。

○介護予防・地域支援課長 報告事項に進む。資料4、令和5年度地域包括支援センターの事業評価に関する全国集計結果についてという内容になる。

まず、介護保険法の第115条の46により、市町村と地域包括支援センターは、地域包括支援センターの事業の評価を行い、必要な措置を講ずると規定をされている。これに伴い、国では、先ほどガイドラインという形で一部ご案内したが、別添につけたとおりで、市町村及び地域包括支援センターの事業評価指標という形で項目や評価の内容を示しており、これに従って、毎年度、該当状況の調査が実施されている。この国の指標については、組織運営体制等や、個別事業の項目を設定している状況になっている。評価対象であるが、個別の各あんしんすこやかセンターだけではなく、区全体の部分での取組みも対象とされている。回答については、別添の指標に記載されている内容をベースにしながら自己採点をつけていくというやり方を取っている。

なお、区では本日報告したとおり、あんしんすこやかセンターの評価点検を独自に行わせていただいているが、先ほども少し説明したとおり、国の評価とは別に実施している理

由としては、全国共通でない区独自の業務や、区の運営方針に沿った個別事業の具体的な内容を評価するために区独自の評価もさせていただいているということで、量が多くなってしまっているのは確かに恐縮ではあるが、そういった形で現状はやらせていただいている。区が設定している独自の項目としては、福祉の相談窓口、介護予防関係の事業、認知症ケアの推進、あんしん見守り事業、在宅医療・介護連携推進等という形で見ていただくと良いかと思う。資料4の別紙に評価の内容がまとまっていて、先ほど委員から出ていたのが、6ページ目が各あんしんすこやかセンターの回答内容になっていて、その手前の1ページ目から5ページ目までが区の評価という形になっている。

順番に説明すると、別紙の1ページ目の1の部分は区及びあんしんすこやかセンター全体の回答状況を指している。表の左側に関しては区の回答、○か×かで書いてあり、その隣に全国市町村の回答率で、全国でどれぐらい○がついているのかが見られるような形になっている。

表の右側がセンター指標となっていて、こちらがあんしんすこやかセンターの回答率という形で、28カ所あんしんすこやかセンター中の○の割合と全国市町村での回答率が両方記載してある。表の左右で関連する指標が並べられている形になっている。

まず、区の回答状況は全部で59項目あり、これは後ほど補足をするが、その中で×が1項目ついているのが今の状況である。前年度は×が3項目あったので、昨年度の×の数から減少させることができたという形で見ていただくといいかと思う。

区の回答のうち、今、×になっているものであるが、4ページ目の左側の下のほう、53、Q75、ここは介護予防ケアマネジメント等を委託する際の区の方針をセンターに明示しているかどうかというところを×にしているが、私は何で×になっているのか疑問だったため見させていただいたが、これまでの回答担当者は質問を素直に受け取っていたみたいで×と回答していたが、実際はマニュアルも作成しており、その中に区の方針・考え方はある程度書かれていると見ている。なので、今年度までは×で出させてもらっているが、来年度以降の回答時は、基本的には○と回答して問題のない質問なのかと捉えている。そういった経緯で、区側の×のところの説明がまず1点目である。

次に、あんしんすこやかセンターの回答状況であるが、A3の表のとおり全部で55項目あり、○の割合が100%になっているのが全部で26項目あった。こちらは、前年度は24項目だったので、ここも少し○の割合が増えている形である。それから、90%台も16項目あった。こちら前年度は15項目だったので少し増えている形になった。それから、

80%台が6項目、こちらが昨年度は8項目あった。70%台が4項目で、前年度は3項目あった。60%台は2項目で、前年度は1項目あった。50%台が1項目である。こちらは昨年度も変わらずという形になっている。

この中で様々な解釈の部分はあるが、○の回答率が低めなもの、7割以下のものを3項目ピックアップさせていただいた。

1つが、この表の7番目、Q16で、先ほど質問に出た部分である。3職種の配置に関する質問の部分で、準ずる者は含まずとなっている関係で、どうしても割合が低くなっているということであるが、実際、これ自体は全国的な傾向でもあり、看護師でも保健師に準ずる者は3職種と取り扱っていたりするものなので、そのように見ていくと、世田谷区の場合は、100%になるところは間違いない部分になってくる。

次が10番目の問いの19、夜間・早朝窓口の設置ということで、こちら67.9%で少し低めになっているが、実際、夜間、時間外の窓口の周知は、区民に対しては、夜間はここにかけていただきたいという周知は特にしていないが、夜間・時間外に電話をかけていただくと、法人や担当職員に転送される仕組みになっているので、基本的な緊急対応は可能な状況になっているところから、ここも統一的にこちらから回答の仕方について御案内しなければいけない部分だと思うが、基本的に○で良いのかと捉えている。

それから、36番目の問いの47、ケアマネから受けた相談事例の件数の経年統計把握、ここも少し低めであるが、昨年度は57.1%ともうちょっと低かったが、昨年度の結果を受けて、「あんすこの風」に、ケアマネジャーからの相談の内訳としての集計結果を新設するような形で、この統計内容を入れられるような項目を新設している。あんしんすこやかセンターから毎月受けている実績報告を区側でクロス集計もしていて、過去2年のデータ集計は終わっているので、データを経年変化にし、あんしんすこやかセンターが確認できる環境に今後整備をしていき、ここも順次、○に変えていければと思っている。

それから、あんしんすこやかセンターの回答状況であるが、全体の状況は1で説明したとおりであるが、あんしんすこやかセンターごとの全設問に対する回答率の割合は100%が2カ所あったというところと、90%台が22カ所あったというところ、それから、80%台が4カ所、あんしんすこやかセンターの回答率は全体でも若干ではあるが、改善してきていることを見ていただけるかと思う。

最後に、9ページ目にレーダーチャートという形でお見せしている。こちらは、評価指標の7分野ごとの回答の平均値を区と、あんしんすこやかセンターと、全国（市町村）の

回答においてそれぞれ比較をしたものになっている。昨年度の部分でいくと、包括的・継続的ケアマネジメントの部分が全国平均を下回ったが、今年度は改善が見られ、全ての項目において全国平均を上回った状況になっている。

説明は以上である。

○会長 今の説明について、皆様から質問、意見等があれば、お願いします。

○委員 聞き漏らしたかもしれないが、世田谷区が回答される場合は、今、○と×になっているが、その2つのどちらかを選ぶ形になるのか。

○介護予防・地域支援課長 そうである。

○委員 あんしんすこやかセンターの回答の割合を基にそれを判断されていると理解したが、特に、例えば何%以上ということではなくて、今紹介されたみたいに、改善の見込みがあるということで区がこの○を決定されたという理解でよろしいか。

○介護予防・地域支援課長 この表の市町村指標とセンター指標それぞれ分かれているので、市町村指標については、区のほうで独自に内容を○、×で判断している。もちろん関連はしてくるが、センター指標はセンター指標として、あんしんすこやかセンター全体の回答を見てこの数値を出しているの、それぞれ連動はしているが、一致はしていないという形である。

○委員 必ずしも一致はしていない。

○介護予防・地域支援課長 そうである。

○委員 例えば、21番、区のあんしんすこやかセンターでは比較的、75%を高いとするか低いとするかというのはあるが、その割合は、それを反映しているということで、ちょっとできていないあんしんすこやかセンターがあるという理解で合っているか。

○介護予防・地域支援課長 あくまでも、区でどこかラインを引いて、これよりも下回っていたらまずいというよりは、基本的には全国の数値が出てくるので、判断の材料としては、そこを見ている。

○委員 先ほども評価を何のために行うかというお話があったと思うが、もちろん世田谷区全体的にあんしんすこやかセンターはとても良い取組みをされているので、全体と比較しても、それから世田谷区としても、○がつくというのは異論はないが、幾つかのあんしんすこやかセンターができていない、あるいは課題だと思っているところがある以上、そこをどうやって改善していくかということがこの評価のもともとの目的かと思うので、それについてはどのように対応をされていこうと思っているか。

○介護予防・地域支援課長 当然、個別に各あんしんすこやかセンターから評価は上がってくるので、そこはそれぞれ担当で見させていただく。特に苦情対応や個人情報等の取扱い等を含めて、一部課題として出てきているようなあんしんすこやかセンターが全くないわけではない。そういったところは当然こちらとしても把握しているので、例えば、そういったところが不十分なのに○がついているのはまずいと思うので、きちんと、その後のフォローはさせていただき、全体の内容を見ながら、この部分は本当に○でいいのか、×でいいのかは個別に問い合わせして回答している形になる。

○委員 私の説明が悪かったが、市町村指標とセンター指標を比較している中で、センター指標が比較的low、もちろんhighが、比較的lowのところはできていないと認識しているあんしんすこやかセンターがいて、ただ、市町村指標はほとんど○になってしまっているので、その乖離が気になった。区の成績というか、区の評価としては別にこれでもいいが、やはりこの乖離があるところは100%ではないという点で改善をしたほうがいいポイントがあるということだと思うので、あんしんすこやかセンターが○、△をつけるというほうの○ではなくて、あんしんすこやかセンターがつけた内容を区でできていると評価するのか、あるいはちょっと足りないところをどうフォローしていく可能性があるのかが検討できるといいと思った。

○会長 特に今指摘があったのは、区のほうが条件を示しているか、定めているかというので、区は定めている、示しているとなっているが、センターが市町村と共有しているかが結構×になっていて、その乖離があるということなので、示していると思っても共有できていないということは、そこは何が問題なのかを改善のヒントにさせていただくとセンターの評価も上がってくるし、取組みがより良くなるという指摘だったかと思う。

そのほかはいかがか。

ないようであるので、こちらで報告事項はよろしいか。

その他、意見、確認事項、情報交換などはあるか。ないようである。

本日の会議について追加の意見、質問等があれば、11月8日金曜日までに配付している意見等用紙を事務局へ提出していただければと思う。

ここで、次回の日程について、事務局、調整をお願いします。

○介護予防・地域支援課長 次回の日程の候補として、候補日を2つ絞らせていただいている。第1候補日は2月28日金曜日の午後7時から、第2希望として2月27日、前日の木曜日午後7時からを考えている。委員の皆様の予定の確認をできればと思う。

(日程調整)

○介護予防・地域支援課長 次回の協議会は2月28日金曜日の午後7時からを予定させていただきます。会場は、本日と同じ第2庁舎4階の大会議室になる。

また、本日、机上に最新版の「あんすこの風」、介護予防・地域支援課の事業報告令和5年度実績の本編と別冊を、それぞれの緑の冊子であるが、置かせていただいた。机上に茶封筒が置いてあるので、お持ち帰りいただきたい。

○会長 以上で本日の運営協議会を終了する。

午後8時48分閉会